

ちょっと待って図書館移転!

連絡会ニュース第 12 号

2023 年 11 月 20 日発行

ちょっと待って図書館移転連絡会こまえ
連絡先（周東）090(9012)0654
mshuto2612@kym.biglobe.ne.jp

図書館分割でいいの？ 10.22 市民集会を受けて 住民投票も検討中

すでにご存知の方もいらっしゃると思いますが、市は 2020 年 8 月中央図書館を分割・移転する「基本方針」を市民の声を聞かずに一方的に決定し、市民の間から多くの異論が出ているにもかかわらず、基本方針については全く変更することなく、基本設計・実施設計をすすめています。10 月 30 日には「新図書館」の基本設計も示されました。

しかし、「ちょっと待って図書館移転連絡会」が行っている市役所前や狛江駅前での宣伝では、いまだに子どもの本と大人の本を 2 箇所の施設に分けてしまう図書館の分割・移転計画を知らない方が少なくありません。計画を知った市民からは「子どもと一緒に利用できないなんて」「大人も一般書と新聞・雑誌の 2 か所になって不便」「駐車場もない」「本が増えないのに、使いづらくなる」「中央図書館としてはあり得ない」などの心配の声、批判の声が多く聞かれます。この分割計画はその中身もすすめ方も、市民の合意が得られた公共事業とはほど遠いものとなっています。

また新図書館開館まで **2 年間も休館** となり、休館中の対応も市内の各地域センターの図書室を活用するなどと言っていますがはっきりしません。費用も当初の 17 億円から 25 億円を越すものとなっています。

ちょっと待って図書館移転連絡会が呼びかけた 10 月 22 日の「図書館は分割でいいの？ 市民集会」には、60 名を超える市民が集まり、その問題点を指摘し、どうやったら計画を見直しさせることができるのかについて、活発に意見が出されました。文化が失われようとしている狛江の現状をマスコミに働きかけ外からの圧力で市を動かす、SNS やポスターで市民に知ってもらう、図書館を利用する若いお母さんたちも運動に入ってこられるよう間口を広くなど、前向きな提案がなされました。

それを受けて世話人会では基本設計・実施設計

が進められ時間がない中で、できることはみんなやろうと、アピール文やポスターに加えて、市民の声を聞こうとしない市政に対して、市民の意見を問う方法として住民投票を検討しました。住民投票とは地方自治法 74 条に則って市民に直接意見を問うものです。

住民投票を行うには 3 ステップあって、①まず住民投票条例の制定を求める直接請求署名（有権者の 50 分の 1 = 約 1400 人の署名が必要）を集めて市長に提出、②市長は住民投票条例を議会にかける。条例が制定されたのち、③住民投票の実施となります。

住民投票条例制定請求署名は、図書館分割の賛否を問うものではありません。あくまで市民の意見を問う機会を作れというもので、市の計画に賛成の人も反対の人も参加できます。

住民投票に取り組むためには、十分な準備と署名を集めていただく受任者など多くの方の協力が必要です。しかし、3 月議会には建築関連予算などが盛り込まれる可能性もあり、ここ 2～3 カ月の取り組みとなります。詳しい取り組みが決まり次第お知らせしますので、図書館分割・移転、公民館改修に関心をお持ちの皆様のご協力をお願いいたします。

10.22 市民集会で決議した市長あての要請文を市長に提出しましたが、11 月 2 日付で「市民センター改修及び新図書館整備に向けて、さまざまな御意見はあろうかと思いますが、すでに多くの市民の皆様からのご理解をいただいていたものと考えていますので、改めて意見交換を行うための懇談会の場を設ける考えはありません。引き続き、市議会で議決をいただきました予算どおりに事業を進めてまいります。」との残念な回答でした。

住民の意思を示そう

岐阜県多治見市に行くと、人口は10万人余りなのに4階建ての壮大な市立図書館がありました。まるで市役所本館かと思うほどの規模。蔵書は42万冊。狛江市図書館と比べて延床面積で3倍、蔵書は2.5倍です。人口規模は狛江市より少し大きいだけなのに、文化に力を入れる度合いはこんなに違う。

高知県の山奥、四万十川の源流にある梶原町は人口3000人余りだけど、町立図書館は狛江図書館よりもはるかに大きい。館内の天井から木材が垂れさがり、まるで森の中で読書しているよう。1階は走り回ってもいいし、おしゃべりも自由。市民の交流の場で、ときにコンサートや講演会場にも。2階はゆったりとしたスペースに、ベッドになりそうなソファが置いてあります。全館まわるのに半日はかかりそう。いずれも、こんな図書館があったら人生は豊かに

なるだろうなあ、と思える造りです。子どもたちは夢をはぐくむし、大人も自分の世界に浸ることができます。

ところが狛江市に目を移すと、図書館の粗末さは目を覆わんばかり。館員はがんばってさまざまなテーマの本を入口に並べるなど手を尽くしていますが、この規模では限りがあります。新しい図書館を創ると決めたのはいいけれど、今の小さな規模をさらに分割するのだと言います。市が決めたことに市民は口を出すなと市長は時代遅れの非民主主義。本は自分で買えばいいから図書館なんか小さくていいと口にする非文化的な議員もいます。非、非・・・非常識がまかり通るなら、市民が正さないと状況は変わらない。

地方政治家の痴ほうを治すのに医師は不要です。住民の意志を示せばいい。住民投票で目を覚ましてやろうではありませんか。
(岩戸北在住 国際ジャーナリスト 伊藤千尋)



本に涙を流させないで

狛江市中央図書館に行ったことがありますか。市役所左側、市民センター1階右手にあるのが中央図書館です。うす暗く、狭く、ゆっくり座って本を読むスペースはありません。しかも蔵書は驚くほどの少なさです。それが狛江中央図書館の現状です。本来図書館は心のオアシスですから、緑の木々に囲まれた光が青空から射し込んで欲しいものです。もちろん日本にはそのような図書館はいくつも存在します。

狛江市は市民センター(公民館・図書館)の老朽化が進み、改修の時期を検討しはじめ、図書館に関しても基本方針を決定し、この10月30日には基本設計を示しました。しかし、その設計を見て多くの市民は驚愕しました。なんと図書館を2分割するとい

うのです。現在の中央図書館を子ども向けにし、JA農協先に建てる新図書館を大人向けとするというのです。

この図書館新設に関しては市民の意見を聞くとしていましたが、まったく耳を傾けることなく、市側の判断のみでことを進めようとしています。親と子がそれぞれの好きな本と一緒に読むという楽しみはないのです。しかも大人向け図書館には駐車場もなく、狭い敷地に無理やり建てようとしています。

今、住民の声を市政に届けなければ、狛江の、特に子どもたちには笑顔いっぱいの本は貸し出しできません。狛江の本たちを泣かさないためにも、市民の皆様の声を結集できればと思います。

(中和泉在住 著述業)